

# 楽楽タイムス5月号

こちらも見てください♪

Facebook



ホームページ



≪認知症により意欲低下から

医療法人社団 楽聖会 こころのクリニック山形 リハビリテーションセンター「らくせい」

TEL.023-682-7575 FAX.023-682-7573 E-mail:emata-day@rakusei-kai.or.jp

ホームページURL: rakusei-kai.or.jp/emata-emata-day

活動量が乏しくなった症例≫

## 基本情報

年齢：80歳代 性別：女性 既往歴：アルツハイマー型認知症、パニック障害

目標：基本動作の介助量軽減、体力・筋力向上、メリハリのある生活を送る

生活・治療経過：

長女・孫と同居。R3.9月頃より食欲低下からエンシュア処方。11月10日から食事が摂れず認知症症状も出現し、A病院へ入院。認知症からのフレイル進行と診断。12月28日に退院。退院後意欲低下もあり、寝てばかりの生活になり、ADL低下。歩行・更衣・入浴・トイレ等長女が介助行っている。R4.1月20日より週1回当センターご利用開始。R4.2月28日に当クリニック初回受診し、服薬変更行う。R4.3月～週2回当センターご利用となる。



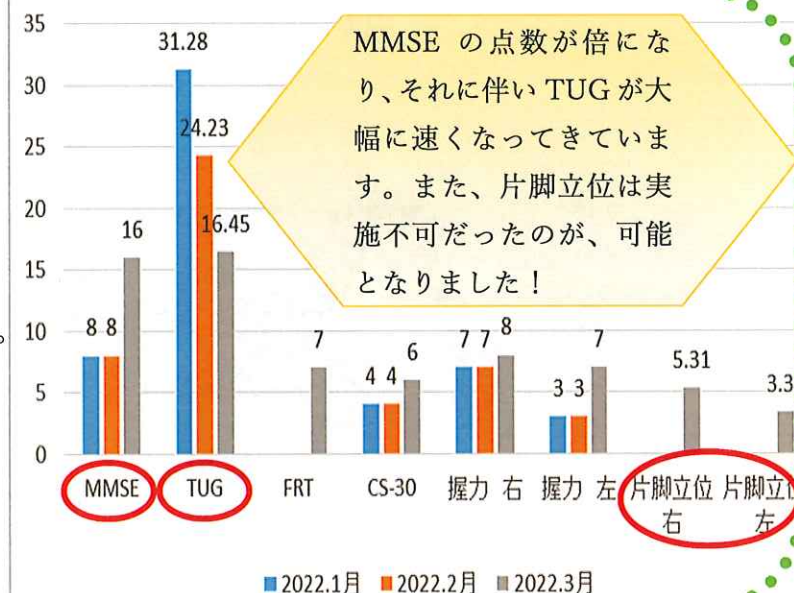
## リハビリ～現在

○フレイルによる全身的な体力・筋力低下、意欲・活動性の低下  
⇒個別リハビリ：基本動作の反復練習や歩行練習を中心に実施。



集団リハビリ：全身的なストレッチや運動プログラム、脳活性プログラムを実施。

○初回利用時と比較し、服薬変更や週2回のご利用になったこともあり、右記の身体評価で大きく改善されました。その後、自宅での自発的な行動も増え、意欲向上も見られ、ご家族より『入浴の介助が楽になった』と、自宅での介助量軽減にも繋がっております。少しずつご本人の中でも意欲が出てきているため、“他者に会う”ということ意識できるようになり、身だしなみにも気を遣うようになりました。モチベーションを維持しながら、今後ともご自宅での介助量軽減やメリハリのある生活を送れるように、リハビリ提供していきます。





「作業療法士としてお伝えしたいこと」

今回ご紹介した症例の方は、実は私の夫の祖母です。「嫁ぎ先の親族を自分の職場に？」と、思う方も中にはおられるかもしれませんが、私から夫の母に勧めました。絶対におばあちゃんを元気にできると思ったからです。

長年介護していたおじいちゃんが亡くなってから急に元気が無くなりました。若い頃介護施設で勤めていたからか自分がそのような施設に通うことを嫌がっているうちにほとんど家から一歩も出ず、とうとうほぼ一日ベッドで過ごす生活に。当センターに通うようになり、家族以外の人との関わりや活動をするうちに、家でも、リハビリのことを話したり、服装を気にしたりと変化がありました。「ひ孫の中学校の入学祝でまたお寿司食べに行こう！」と誘ったら、すぐにうなずいてくれました。嬉しかったです。

多くのご家族が、お迎えに行くと、「いってらっしゃい。」と、仕事に送り出すように見送ってくださいます。「行く場所があることが幸せなことだ。」と話される利用者様もおられます。

介護保険制度では、リハビリ前置主義といわれ、リハビリの重要性が注目されています。リハビリに関わる者として、リハビリは人生の通過点のひとつであることを皆さんにお伝えしたいのです。仕事に退職があるように、リハビリにも卒業があり、それは社会復帰か、別の施設か、ゴールは様々です。リハビリ人生にならず、当センターで、多くの方が次の

一歩を探すためのお手伝いをしたいと、職員全員でお待ちしています。

元気がなくなってきたご家族、ご友人がおられれば、まずは

「いってらっしゃい。」

と背中をおしていただきたいと思います。

作業療法士 山口美穂

